

企業ニュース SCREENホールディングス

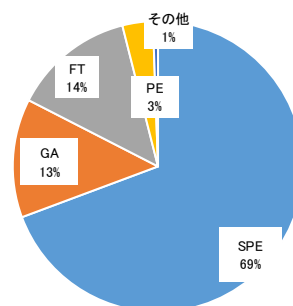
(東証1部 : 7735) <http://www.screen.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

大手半導体洗浄装置メーカー

1937年に石田旭山印刷所の写真製版用ガラススクリーン研究部門が独立し、大日本スクリーン製造所として設立された、国内半導体洗浄装置メーカー。1943年に大日本スクリーン製造、2014年に現社名に変更した。主力の半導体製造装置等を展開するセミコンダクターソリューション (SPE) では、半導体枚葉式洗浄装置、同バッチ式洗浄装置、スピンスクラブ等が高いシェアを持つ。最大手メモリメーカー向けの販売比率が低い一方、ロジック・ファウンドリー向けに強みを持っている。その他、ディスプレイ製造装置及び成膜装置 (FT)、印刷関連機器 (GA)、プリント基板関連機器 (PE) などの領域で事業展開している。フラットパネル向けコータ・デベロッパやCTP装置などでも高いシェアを持つ。新たな事業領域としてリチウムイオン電池向けの装置 (電極製造) などにも取り組んでいる。

◇19.3期売上高構成比



(出所) SCREENホールディングス資料よりCAM作成

SPEの受注回復で事業に業績底打ちの兆し

20.3期・第1四半期 (4-6月) の連結業績は売上高が582億円、前年同期比20%減、営業損益が44億円の赤字、同95億円の悪化。全セグメントで減収減益・営業赤字となったが、受注はSPE、FTがともに予想を上回った。メモリは年度後半に期待されていた投資回復のタイミングは遅れ気味だが、ロジック向けの量産・微細化投資は堅調に進捗、ファウンドリーの投資拡大時期の前倒し期待が高まっている。6月末のSPE受注残高は1,031億円と高水準となった。

20.3期の会社計画は売上高が3,240億円、前期比11%減、営業利益が250億円、同16%減。足元の世界景気動向への不透明感などから、GA中心に売り上げの下振れやFT事業での変動費率上昇を想定し、期初計画から売上高で30億円、営業利益で15億円の下方修正。営業利益では円高傾向の為替影響も加味した (想定為替レートを1\$ = 110円から105円に修正)。一方、SPEはロジック・ファウンドリー向けの受注が好調に推移し、採算性の改善も期待できた模様で、SPE事業の業績は期初予想のまま据え置いた。

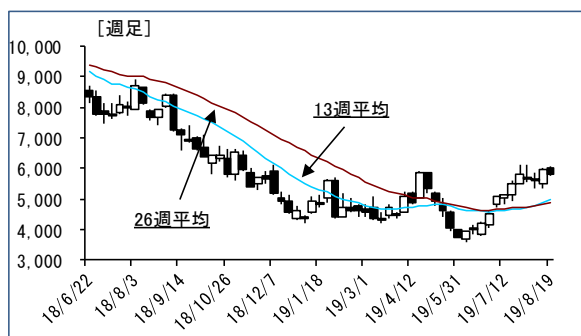
[株価動向・投資判断]

SPEの受注拡大で中期的な業績への安心感が出てきた。収益性向上の課題は残るが、業界内での比較から、相対的な優位性を評価できる銘柄と言えよう。

<7735 スクリン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上及び営業収入	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	339,368 (13)	42,725 (27)	41,329 (29)	28,507 (18)	608.6	110.00
19.3	364,234 (7)	29,645 (▲ 31)	29,279 (▲ 29)	18,059 (▲ 37)	387.1	97.00
20.3 予	324,000 (▲ 11)	25,000 (▲ 16)	22,500 (▲ 23)	17,000 (▲ 6)	364.3	97.00



主要株価指標	(売買単位: 100株)
株価 (2019/8/19)	5,790 円
年初来高値 (高値日)	6,120 円 (19/7/25)
同 安値 (安値日)	3,585 円 (19/6/3)
予想 P E R (20.3 予)	15.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,642.8 円
P B R	1.59 倍
予想配当利回り	1.68 %
(1株当たり配当金 97.00円)	
R O E (19.3)	10.3 %
発行済み株式数	5,079 万株